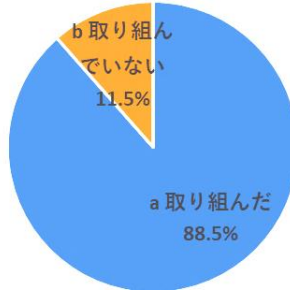
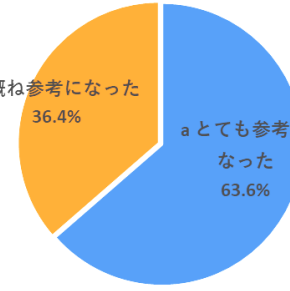


令和6年度 学校評価 最終評価報告

石川県立錦城特別支援学校

重点 目標	具体的取組	主 担当	実現状況の達成度 判断基準 【B以上で達成、C・Dは 工夫改善】	質問項目	最終集計結果	分析 (成果と課題)	評 価																																																							
(1) 授業改 善と専 門性の 向上	① <授業改善> 「新たな教師の学 びの姿」を踏まえ、 各自が学校研究を 推進し、深い学びへ の授業改善を行う。	研究 推進課 全学 部	アイデアシートや自己の研究等を生かし、教科及び自立活動の研究グループや担当する授業等において、授業の工夫改善に取り組んだ職員の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <u>達成度判断基準</u> 5項目のアンケート内容に対し、4項目以上に「できた」「ややできた」と回答した職員の割合が70%以上	【職員アンケート】 <u>5項目</u> ア. 研究会において、授業改善について意見を毎回伝えた。 イ. 研究授業において、働かせる教科の見方・考え方について理解できた。 ウ. 研究授業において、「深い学び」の姿を具体的にイメージすることができた。 エ. 研究授業及び普段の授業において、発問や学習活動によって児童生徒がどのように考えるかイメージする。 オ. 研究会を通して、児童生徒「深い学び」をするための工夫について理解し、普段の授業場面で生かすことができた。	各教員の「できた・ややできた」項目数の割合 ①5項目②4項目③3項目④2項目以下 達成度の割合（単位%） <table><tr><th></th><th>国語</th><th>算数</th><th>自立活動</th><th>全体</th></tr><tr><td>①</td><td>76.5</td><td>55.6</td><td>70.0</td><td>69.4</td></tr><tr><td>②</td><td>11.8</td><td>33.3</td><td>10.0</td><td>16.7</td></tr><tr><td>③</td><td>5.9</td><td>11.1</td><td>10.0</td><td>8.3</td></tr><tr><td>④</td><td>5.9</td><td>0.0</td><td>10.0</td><td>5.6</td></tr></table> 各項目の①+②の割合（単位%） <table><tr><th></th><th>国語</th><th>算数</th><th>自立活動</th><th>全体</th></tr><tr><td>ア</td><td>82</td><td>100</td><td>80</td><td>86</td></tr><tr><td>イ</td><td>94</td><td>100</td><td>90</td><td>94</td></tr><tr><td>ウ</td><td>94</td><td>78</td><td>100</td><td>92</td></tr><tr><td>エ</td><td>88</td><td>100</td><td>90</td><td>92</td></tr><tr><td>オ</td><td>82</td><td>67</td><td>70</td><td>75</td></tr></table> 【結果】 A「①+②」=86.1%		国語	算数	自立活動	全体	①	76.5	55.6	70.0	69.4	②	11.8	33.3	10.0	16.7	③	5.9	11.1	10.0	8.3	④	5.9	0.0	10.0	5.6		国語	算数	自立活動	全体	ア	82	100	80	86	イ	94	100	90	94	ウ	94	78	100	92	エ	88	100	90	92	オ	82	67	70	75	アンケートの結果、4項目以上実施した教員（①+②）の割合は86.1%（A評価）となった。達成度の割合はグループ間に大きな差は見られなかった。中間評価時と質問項目は異なるが、自立活動グループが中間評価（55%）に比べ向上した。それは研究のまとめを作成する中で今年度の取組が整理できたことが理由と考えられる。項目オは80%を下回っており、今後は「深い学び」につながる授業の工夫について更に検討していきたい。 具体的な取組について尋ねると「児童生徒がどのように考えるか意識するようになった」のように児童生徒の思考の流れと問いかけに関する回答が多く見られた。これは学校研究のテーマである「問いの質を高める」ことに関連し、授業改善が進められていると判断できる。	A 達成
	国語	算数	自立活動	全体																																																										
①	76.5	55.6	70.0	69.4																																																										
②	11.8	33.3	10.0	16.7																																																										
③	5.9	11.1	10.0	8.3																																																										
④	5.9	0.0	10.0	5.6																																																										
	国語	算数	自立活動	全体																																																										
ア	82	100	80	86																																																										
イ	94	100	90	94																																																										
ウ	94	78	100	92																																																										
エ	88	100	90	92																																																										
オ	82	67	70	75																																																										
	② <専門性の向上> 社会に開かれた教育課程を目指し、児童生徒の特性や能力に応じ、確かな学びに繋がる授業展開や各教科の指導の充実を図る。	教務課	部で作成・検討した3年間を見通した指導内容表が、年間指導計画や個別の指導計画に活かされ、各教科の指導が充実したと感じる保護者の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <u>達成度判断基準</u> 学校公開で、各教科の指導が充実したと感じた保護者及び参観者の割合が70%以上	【学校公開参観者アンケート】 <u>1項目</u> ア. 年間指導計画や指導内容表をご覧になり、3年間を見通した各教科の指導が充実したと感じますか。	参観者アンケート6段階評価の割合 a とてもそう思う35.5% b そう思う38.7% c あまり思わない0% d 思わない0% e 分からない3.2% f 見ていない22.6% 【結果】 B「a+b」=74.2%	第2回学校公開においても、第1回と同様に指導内容表を掲示した。回答者31名のうち「充実したと思う」と答えた参観者は74.2%で今回も中間評価と同様にB評価であった。参観者からは、「生徒に応じた指導をしている」「児童が興味を持てるようわかりやすく楽しい授業である」「目標に工夫がされている」といったご意見をいただき、各教員が指導内容表をもとに各教科の指導内容について研鑽を深め実践したことの成果であると考えている。 なお、1月の保護者対象の授業参観では、全学部で全教科の指導内容表を掲示したところ、参観者13名のうち全員から「充実したと思う」という回答を得られた。 今後はこの指導内容表を、年間指導計画作成に十分に生かして、授業の充実を図っていく必要がある。	B 達成																																																							

	③	＜ICTの活用＞ 児童生徒の障害特性を踏まえたICTの活用を工夫し、個別最適な学びや協働的な学びに繋がる授業を実践する。	情報支援課 全学部	<p>タブレット端末を効果的に活用し、児童生徒の家庭学習やオンライン学習等につながる個別最適な学びを進める取組ができた職員の割合</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p>達成度判断基準</p> <p>タブレット端末を活用して児童生徒の個の特性、興味・関心、学習進度に合わせた学習指導を行った職員の割合が70%以上</p>	<p>【職員アンケート】 1項目</p> <p>ア. 年間を通してタブレット端末を活用し、児童生徒の個の特性、興味・関心、学習進度に合わせた学習指導を行った。</p>	<p>タブレット端末を活用し学習指導を行った職員の割合</p> <p>a 週に1回以上行った 38.7% b 月に1回以上行った 51.6% c 4～1月の間に1回以上行った 3.2% d 行ったことがない 6.5%</p> <p>【結果】 A「a+b」= 90.3%</p>	<p>アンケートの結果、年間を通してタブレット端末を活用し個別最適な学びを進める学習指導を行った教職員の割合は90.3%（a+b）でA評価となった。中間評価の74.2%（a+b）と比べて16.1%向上する結果となり、児童生徒に合わせ、積極的にICTを活用した授業づくりを行っていることが伺える。</p> <p>オンラインツールGoogle Classroomの活用は、分教室を除いて全ての担任が児童生徒や保護者とのやりとりを行った。活用頻度について尋ねると、64.7%の担任が「週／月に1回以上行った」と回答している。学習課題の提示等、より効果的なオンライン学習の活用方法については、実践事例の紹介等を含めて今後も検討・改善していく。</p>	A 達成
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> 学校研究については、授業改善に向けた取組をしっかりとされていることが理解できた。 家庭と連携し、卒業後の生活に生かせるような取組を進めてほしい。電車の利用や買い物の仕方について、電子決済の利用等、時代にあったより実践的な指導を考えていくとよい。 ICTを活用した授業づくりや、Google Classroomの活用が浸透していることが伺える。行事等の様子が写真等で発信されることで、学校での子どもの様子がよくわかりよかった。 					
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策			<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の思考を促し、深い学びに繋がる授業づくりを目指し、今後も授業力を培う取組を継続しながら教員一人一人の専門性の向上に努めていく。 卒業後の生活をイメージし、教科学習では見方・考え方を働かせる指導を行いながら児童生徒の資質・能力を育み、行事等の場面を捉えて時代にあった実践的な指導を行っていく。 					
(2) キャリア教育の推進	①	＜プログラムの活用＞ 錦城版キャリア教育プログラム（改訂版）を活用し、家庭と連携し個々のキャリア発達を促す取組を実践する。	進路支援課 キャリア教育	<p>キャリア教育の内容【社会で生きる力】（挨拶やきまりを守る等）を理解し、家庭でも取り組んでいる保護者の割合</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善</p> <p>達成度判断基準</p> <p>家庭で取り組んでいる保護者の割合が70%以上</p>	<p>【保護者・取組カード結果】 1項目</p> <p>（キャリア発達につながる家庭での取組について）</p> <p>ア.『約束守り名人になろう！パート2』の取組週間で、家庭での約束を決め、児童生徒が約束を守ろうと取り組みましたか。</p>	<p>家庭で『約束守り名人になろう！パート2』に取り組んだ割合</p> <p>a 取り組んだ 88.5% b 取り組んでいない 11.5%</p> <p>※学部別の割合</p> <p>小学部 95% 中学部 100% 高等部 75%</p>	<p>10月に2回目の取組期間を設定しその期間中に家庭で取り組んだ保護者は全体の88.5%で、前期の取組よりも7.8%上昇した。その理由として、今年度の取組（あいさつの花を咲かせよう、約束守り名人になろう、キャリアパスポートの活用）を通して、教員のキャリア教育に対する意識が高まり、丁寧かつ具体的に保護者への説明ができたからではないかと考える。</p> <p>一方で、2回とも取組を行わなかった家庭もあることから、新たに目標を立てるだけではなく今できていることを継続したり、場面や場所、人が変わ</p>	A 達成

			委員会 各担任			 <p>【結果】 A 88.5%</p>	とてもできる力をつけることの重要性も説明したりする必要があったのではないかと考える。 今後も家庭と連携した取組を継続し児童生徒のキャリア発達を促していきたい。	
②	＜進路支援の充実＞ センター的機能を発揮し、地域の保護者も交えた進路研修会等を継続し、キャリア教育の充実や進路支援、進路相談の充実を図る。	進路支援課	キャリア教育や進路に関する研修会等の内容や進路相談に満足している保護者の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 B以上 C・Dは工夫改善 <u>達成度判断基準</u> 進路に関する研修会等で内容や進路相談に満足している保護者・参加者の割合が70%以上	【保護者・参加者アンケート】 <u>1項目</u> ア. 第2回卒業後の進路を考える研修会で、研修内容が分かり、参考になりましたか。	参加者アンケート4段階評価の割合ア. a 研修内容にとっても満足できた 63.6% b 研修内容に概ね満足できた 36.4% c 研修容にあまり満足できなかった 0% D 研修内容に満足できなかった 0%  <p>【結果】 A 「a+b」=100%</p>	第2回「卒業後の進路を考える研修会」に参加しアンケートを提出した保護者全員より、研修内容等に満足できたとの回答が得られた。自由記述欄では「とてもわかりやすく、今後に生かせる内容だった」「もっと早くに聞きたかった」「また、ぜひ講演会に来たいです」等、前向きな感想が多くあり、保護者にとって研修内容がニーズに合っていたことが伺える。個別相談会に参加した5名の全参加者からも「相談内容にとっても満足した」「概ね満足した」との回答が得られ進路相談に対しても満足度が伺えた。 前回はアンケートの回収率がやや低かったが今回はFormsと紙媒体でアンケートを提示したことで、全員がその場で回答し、回収率は100%であった。 来年度の研修会に向けて、保護者の要望を反映し、進路指導や発達障害の理解等、ニーズに応えた研修会を企画していかなければならないと考えている。	A 達成	
学校関係者評価委員会の評価			・家庭での「約束守り名人になろう」の取組において、小中学部に比べると高等部の取組状況が低く、家庭での取組に対して基準を高く設定してたことが予想される。できることを継続して続けることも含め、児童生徒に応じた取組の具体的な内容を共有できるとよい。 ・「できていること」を評価するだけでなく、「どのようにサポートすればできるようになるのか」という視点で支援を共有し、指導していくことが大切である。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			・キャリア教育プログラムを保護者に提示・説明する時に「できていることを続ける」「こうすればできる」といった視点を持つことが大切であることを伝える。					

(3) 安心・安全な学校づくり	①	<健康・安全・防災に関する教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する指導を授業や行事等において実践する	指導課 保健課 各部	児童生徒の実態や発達段階に応じて指導し、健康や保健に関する学習において理解を深めることができた児童生徒の割合 A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満 B以上 C・Dは工夫改善 達成度判断基準 健康や保健に関する学習において理解を深めることができた児童生徒の割合が70％以上	【教員アンケート】 2項目 ア. 場面（給食前、トイレ後、活動後など）に応じて、手洗いすることの意味を理解して、教師の声かけがなくても自ら手洗いすることができている児童生徒数。 イ. 歯磨きすることの意味や大切さを理解して、給食後、教師の声かけがなくても自ら歯を磨いている児童生徒数。	2項目で自主的な行動が見られた児童生徒の割合 <table><tr><td>学部</td><td>ア. 手洗い指導</td><td>イ. 歯磨き指導</td></tr><tr><td>小学部</td><td>45.0%</td><td>70.0%</td></tr><tr><td>中学部</td><td>50.0%</td><td>100 %</td></tr><tr><td>高等部</td><td>68.7%</td><td>37.5%</td></tr><tr><td>小計</td><td>54.5%</td><td>69.1%</td></tr><tr><td>平均</td><td colspan="2">61.8%</td></tr></table> 【結果】 C 61.8%	学部	ア. 手洗い指導	イ. 歯磨き指導	小学部	45.0%	70.0%	中学部	50.0%	100 %	高等部	68.7%	37.5%	小計	54.5%	69.1%	平均	61.8%		後期重点的に保健指導を行った2つの項目についてアンケートを実施した手洗いの意味を理解して自ら手洗いしている児童生徒数、歯磨きの意味を理解して自ら歯磨きしている児童生徒数の平均は61.8％でC評価となった。 アンケート調査では学部での保健指導に加え、全教員が「手洗い」や「歯磨き」をすることの意味や大切さの指導を行っているとは回答したが、児童生徒によってその意味や大切さを理解できているかどうかについての判断が難しい面もあった。具体的な指導や評価方法についてもさらに検討していく必要がある。しかし、ほとんどの児童生徒において教師の言葉がけや支援を受けて手洗いや歯磨きが定着している。 今後、毎月の保健目標については様々な場面での発信を続け、目標を意識した指導を教員に働きかけながら、児童生徒が健康や保健に関する理解を深めていけるようにしていきたい。	C 工夫改善																
	学部	ア. 手洗い指導	イ. 歯磨き指導																																							
小学部	45.0%	70.0%																																								
中学部	50.0%	100 %																																								
高等部	68.7%	37.5%																																								
小計	54.5%	69.1%																																								
平均	61.8%																																									
				防災学習や避難訓練等において、防災に関する発言が見られたり、適切な行動を自らとったりすることができた児童生徒の割合 A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満 B以上 C・Dは工夫改善 達成度判断基準 防災学習において、防災に関する発言や適切な行動を自らとった児童生徒の割合が70％以上	【教員アンケート】 4項目 <防災学習> ア. モニター画面を見たり、教師の話の聞いたりしていた児童生徒数。 イ. 防災に関する話をしたり、絵カード等を指さしたりする姿が見られた児童生徒数。 <避難訓練（地震・火災）> ア. 避難訓練では教師の指示がなくても、ハンカチ等をくちに当て避難行動をとる等の姿が見られた児童生徒数。 イ. 避難訓練では「おはしも」を意識して安全に避難しようとした児童生徒数。	4項目で適切な行動や自主的な姿が見られた児童生徒の割合 <table><tr><td rowspan="2">学部</td><td colspan="2">防災学習</td><td colspan="2">火災訓練</td></tr><tr><td>ア</td><td>イ</td><td>ア</td><td>イ</td></tr><tr><td>小学部</td><td>100%</td><td>84.2%</td><td>94.7%</td><td>84.2%</td></tr><tr><td>中学部</td><td>100%</td><td>69.2%</td><td>100%</td><td>92.3%</td></tr><tr><td>高等部</td><td>100%</td><td>92.3%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr><tr><td>小計</td><td>100%</td><td>81.9%</td><td>98.2%</td><td>92.2%</td></tr><tr><td>平均</td><td colspan="4">93.1%</td></tr></table> 【結果】 A 93.1%	学部	防災学習		火災訓練		ア	イ	ア	イ	小学部	100%	84.2%	94.7%	84.2%	中学部	100%	69.2%	100%	92.3%	高等部	100%	92.3%	100%	100%	小計	100%	81.9%	98.2%	92.2%	平均	93.1%				防災学習と地震・火災訓練において、児童生徒の意識や行動面の教員アンケート調査を行った結果、調査4項目の平均が93.1％であり、判定基準はAであった。また、4項目すべてにおいて、80％のA判定基準を上回った。今年度は部集会等で定期的に防災学習を実施しており、児童生徒が防災学習の内容に興味・関心を持ったことで主体的な学びとなり、防災訓練での児童生徒の適切な行動にも繋がったと考える。 今後も、災害時や緊急時に備え、児童生徒が防災意識を高めていくような指導を工夫し、自分で考え適切に行動できるような取組を実践していく。	A 達成
学部	防災学習		火災訓練																																							
	ア	イ	ア	イ																																						
小学部	100%	84.2%	94.7%	84.2%																																						
中学部	100%	69.2%	100%	92.3%																																						
高等部	100%	92.3%	100%	100%																																						
小計	100%	81.9%	98.2%	92.2%																																						
平均	93.1%																																									
学校関係者評価委員会の評価				・保健指導については、学部によって成果指標に対する達成度にはばらつきがあり、基準が曖昧で教員がどのように評価すればよいか迷う部分があったのではないかと。 ・児童生徒が避難訓練等において適切な行動がとれるようになっており、防災学習の指導の効果が見える。																																						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策				・児童生徒の実態に応じたわかりやすい指導と個に応じた評価方法を教員間で共有しながら、今後も継続して健康や保健に関する理解を深めるような保健指導を実施していく。 ・危機管理マニュアルを見直し、訓練等についてもより実践的に行うことで、児童生徒の防災意識をより高めていく。 ・加賀市の指定避難所指定に伴い、次年度、有事に備えた備品の設置や環境整備を行っていく。																																						

(4) 業務の 効率化 の工夫 業務の 効率化	①	<業務の効率化と 環境改善> 分掌業務のデジ タル化と共有化を 推進し、各部・各課 がマニュアルやス ケジュール等をも とに業務の効率化 や平準化を目指す。	教頭 各課 全学 学部	各部・各課（計12部署）に おいて、連絡・調査等の配 付文書をペーパーレス化し 計画的にデジタル配信する ことで、効率よく業務を行 えた部・課の割合 A：10/12以上 B： 8/12以上 C： 6/12以上 D： 4/12以下 B以上 C・Dは工夫改善 達成度判断基準 家庭及び関係機関への配付 文書をペーパーレス化し、 効率化を図った部・課が 8 部署以上	【教員アンケート】1項目 ア. 連絡や調査等の配付文書をペ ーパーレス化し、業務の効率化 を図った。	配付文書をペーパーレス化し、業務 の効率化を図った部署の数 a 連絡や調査等の配付文書をペーパ ーレス化し、業務の効率化を図っ た課、部 11部署 b 連絡や調査等の配付文書のペーパ ーレス化を行わなかった課、部 1部署 【結果】A「11/12」	12の部署のうち、11部署よりペーパ ーレス化を図ったという回答を得られ たが、1 部署については保護者への配 付文書を作成する機会がなかったとの 回答であった。今年度導入した保護者 連絡ツール（tetoru）では、年間を通 して保護者や教職員に全52件の連絡や アンケート調査等を配信した。また担 任によるGoogle Classroomの活用が浸 透し、日々の連絡や授業の様子等を定 期的に配信するクラスも増えてきてい る。1月には災害緊急時に備えてGoogl Classroomによる配信訓練を行ったり、 降雪の注意喚起やSBの遅れを tetoru で配信したりする等、緊急時に備えて 連絡配信が行えるように体制を整備し た。 また、全部署から業務の平準化を意 識した業務分担や、Teamsを活用した 連絡や会議等、業務のICT化を図って いると回答が得られ、業務の効率化に 対する教職員の意識の向上も伺える。 次年度に向けて、さらにペーパーレ ス化を進めていけるように、今後も業 務のデジタル化と共有化を推進し、効 率化に努めていく。	A 達成
学校関係者評価委員会の評価				・保護者への配付物やアンケート等についてはデジタル化が進んでおり、今後も保護者の意見を聞きながら、さらにペーパーレス化を進めていけるとよい。 ・Google Classroomやtetoru 等、デジタル配信の方法が複数あり、その違いがわかりにくいところがある。				
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策				・保護者への配付物については、用途に応じて紙媒体とデジタル配信の分類をしながら、さらにペーパーレス化を進めていくようにする。 ・デジタル配信において、双方向のやりとりの方法について、保護者に丁寧に説明していく。 ・今後も業務のデジタル化と共有化を推進し、業務の効率化と平準化に取り組んでいく。				